



# 魂のふれ合いを

会長 齋藤 吉則



このたびは、東京都神道青年会会報が、発

足以来、二十周年を記念して、装いも新たに「やくわえ」という名称を以て復刊されましたことは、会長と致しまして誠に喜びにたえません。これもひとえに当青年会調査研究部諸氏の並々ならぬ情熱と努力の結晶と、加えて創立以来当青年会の成長と発展のために献身的な御努力を惜しまれなかつた、先輩諸兄の御支援の賜物と深く感謝致します。この本会会報の

復刊を機会に、その名称の如く本会が増々発展し、未来の日本の精神的伝統の底流を支えるべき基礎となり得ますことを、心から期待してやみません。

因みに私は、今より十五年前、昭和三十一年度の青年会々報第六号の巻頭言に、大鳥居吾朗先生が「民族の伝統的な信仰と精神を喪失させられた青少年が、今後十年間ひきつづいて、神社神道に対する知識と信仰を得る機会なくして社会人として立ち、国家の各部門を担当した時こそ、神社神道が重大な危機にさらされるであろうことを深く危惧する。」と、お書きになられた一文を想い起します。

誠に爾来十年有余の歳月に依って、神社神道の精神を汲むことななくして成長期を過した人々が、現在、心の依りどころを失って逆う様を、学園紛争等、社会の世相によってうかがうことは遺憾にたえぬものがあります。これは、とりも直さず、今から二十有余年以前日本に在って精神的思想的にその中核を喪失して、信念の確立を暖昧のうちに成人した現在の教育者にも、その責任の一端があるので

はなかるうかと思われます。昨年二月初旬のある夜のテレビで、立命館大学の梅原猛教授が、責任を感じて退職するその心境を、彼は奈良期に遡り、当時の学問の場であったものを例に挙げて述べた後、「西欧文明の法礼によって確立した明治以来の日本の教育大系の中に、日本人の歴史と伝統を無視したものが多すぎて、現在のこうした結果を招いた原因があると思う、望むらくは、日本古来の教育法、つまり心と心、魂と魂のふれ合う師弟関係こそ、これからの教育の場になくてはならないものである。」という意味のことを述べて居られました。私はこの言葉に深く打たれるものがあ

りました。心と心、魂と魂のふれ合う師弟関係、これこそ神社神道の神隨に一脈通じるものと感じたのでした。

大鳥居先生の御明察であった神社神道の危機は、とりも直さず日本人類の危機でもあったのです。

こうした中で、各神社を中心として結成され、実ある業績をあげつつある氏子青年会の如き、神道精神をそのまま実生活の根底に置いた若者達の清冽な心の成長を見逃がすわけにはまいりません。このような若人の育成こそ、われわれに課せられた使命であることを痛感し、氏子青年会育成活動を重点施策として推進する所存であります。ここに於てわれわれ青年神職はその責務の重大さを自覚し、百年続いた西欧文明のもたらした自然軽視の思想のあやまりを正し、日本古来の神道精神にもとる現代の人間のあり方をより健全に導くために、尚一層の努力と献身を誓い神明奉仕の赤心に依って社会に寄与致したいと念願する次第であります。

今後共、斯界の先輩諸先生各位の心からなる御鞭撻と御指導を願って止みません。

# 会報創刊を祝う

東京都神社庁長 大鳥居吾朗



神道青年会の諸君は、神社界の尖兵となつて活躍され、また、神社庁の諸事業にも卒先協力してその実を上げておられますことは、誠に感謝に堪えません。さらにこのたび会報「やくわえ」を創刊され、おめでとうございます。

さて現下の世情を見ますに、学生騒動や青少年の犯罪等目に余るものがあります。これは戦後の教育の欠陥によるものであり、国民精神の欠除にほかなりません。神社本庁では先年来国民精神昂揚運動を展開して参りました。青年神職諸君はその指導者として活躍されることを切に期待致します。

神社と青年を結び、敬神思想の昂揚に努めるために、氏子青年会の結成促進を神道青年会が中心となつて進められていますが、神社庁と致しましても、昭和四十五年度の教化事業の第一にこれを取上げ、組織の拡大につとめることになり、また東京都神社総代会におきましても、昨年十月の大会にその組織化推進を決議し、全面的に後援することとなりました。しかしながらその実行は、青年神職諸君の活躍によるほかはありません。

本年は伊勢神宮式年遷宮奉賛金の募財活動や、大麻増強運動の諸事業や、神宮会館、神社会館等の建設が行なわれますが、今後とも一層の御支援御協力をお願いしまして、会報創刊をお祝いする御挨拶にかえさせていただきます。

# 「やくわえ」を祝福

神道青年全国協議会会長 斎藤 成徳



東京都神道青年会が、創立二十年を期して機関紙「やくわえ」を刊行されることは、誠に意義あることと心からお慶び申し上げます。

おもえば戦後の神社界が大きな打撃をうけ、苦難の道を歩んでより二十五年を経過し、世界情勢は和平自由統合へと動きつつある一方、新たな危機はアジアを中心にゆれ動いています。この激動する七〇年代にあつて、日本のアジア否世界における役割は重要かつ大であります。国内の現状はエコノミックアニマルと言われる高度成長経済は大きな転機にあり、政治の貧困は左翼革命勢力を胎頭させ、安全保障、領土問題、教育、青少年問題等々いたずらな抗争に明け暮れる社会情勢、国民思想の動向をみる時、民族の自主独立をかちとるためにもわれわれ神道青年の果す使命は重いのであります。

都神青がその堅実な発展の足跡を記すものとしての「やくわえ」を祝福すると共に、新たな運動の飛躍のためにも、静かに二十年の歴史を反省することは大切であります。

激動する七十年代を初心にかえり情熱と行動を持って、新時代に生きる神社神道を確立し、神道青年たる誇りと責任に生き、共に研鑽し、全国同志と共に歴史と伝統に根ざす人づくり国づくのため、一路邁進すべき決意を示し、使命達成へともに前進されんことを心から念願するものであります。

## 共産主義の魔手

東京都神社総代会会長 田中栄一



最近、公明党の言論抑圧を取り上げて、社会党、民社党、共産党の野党三党が連携して弾劾にあたっている。特に共産党がその主体となっているが、私の最も奇異に感じることがは、一体、共産国に於て、言論の自由があるのかどうか。共産党が言論の自由抑圧を攻撃することは誠に誠におかしなことと思う。

昨年暮の総選挙に於て、社会党が沈み、共産党が伸びているのは、社会党を打破って、共産党が伸びているものと思える。だから社共の土俵の大きさにあまり変化がないと思うが最近の共産党の動きは、表面、マルクス・レーニンの暴力主義をかなぐり捨てた如く、微笑とソフトムードの懐柔的な共産化運動に化けている。一朝機会を得たならば、やがて、本性をむき出してその革命政党、暴力性を發揮せんとしております。だから、なんと言っても、共産党の脅威というものをわれわれは絶対に忘れてはならない。平和ムードの共産主義の宣伝に騙されてはいけません。生活本位に、ちょっとした欲望や弱みの隙間に食い込んでくる共産主義の魔手に酔わされてはけない。共産主義の本体を凝視して、徹底的に戦うべきである。神道に志す青年諸君もわが国の将来の繁栄と民族の安全を考えて、共産主義の見えざる魔手に対抗していかなければならないことをここに提言します。

(衆議院外務委員長)

## 氏青結成促進を

東京都氏子青年連絡会会長 大沢政次郎



東京都氏子青年連絡会の代表という役目をお預りして、今更ながらその責任の重大さを痛感しております。

私共氏子青年会は神社と不離一体の存在であり、また神道青年会は兄組織として、日頃御指導をいただいております。その兄と仰ぐ東京都神道青年会が、会報を創刊なさるということは、非常に喜ばしいことと御同慶にたえません。

現在東京都には、氏子青年会組織が六単位を数えるのみで非常に少なく、組織化促進の運動は色々な形でなされてきておりますが、まだ力至らず、その成果は表われていません。本一九七〇年は、東京都神道青年会の創立二十周年の年に当るとのこととございますが、一九七〇年代の幕開きと創立二十周年を機に、氏子青年会組織の飛躍的増進にお力をお借しただきたいと思っております。東京都神社庁におかれても、教化目標の第一に氏子青年問題をとりあげて下さるそうで、私たちも勇気百倍、全国氏子青年協議会の掲げる組織拡大三年計画と呼応して、私たち自身でも大いに努力しなければならぬと考えております。

混沌と多様化の中に迎えた一九七〇年に対応する姿勢として、私たちは「敬神崇祖」を根本理として「現代の神道化」を目指して、微力ながら地道な努力を続けていきたいと思っております。兄団体である神道青年会の御指導、御鞭撻を切にお願い申し上げます。

# 氏青組織対策の懇談会

## 神社庁と神青・氏青会で

本会主催の神社庁、神道青年会、東京都氏子青年連絡会の三者合同の懇談会が、去る二月十七日午後六時より高円寺氷川神社に於て開かれた。

神社庁側からは、大鳥居庁長、小俣副庁長、高橋参事、上野教化部長が出席、氏青側は、日枝神社奉賛青年会大沢会長、牛島神社氏子青年会大竹会長、道々橋神社氏子青年会醍醐会長、氷川神社氏子青年会谷会長、居木神社氏子青年会高橋会長の五氏と神青側は齋藤会長以下十五名の委員が出席して氏青問題について討議した。

氏青組織育成が叫ばれ始めてからすでに十余年、全国氏子青年協議会の組織が発足してから七年たち、全国各神社に氏青会を作ろうのスローガンのもと、この運動は進められてきているがその成果は決してはかばかしくない。

東京においても、明治維新百年の昭和四十三年に「東京都氏子青年大会」を開催し、見通しは明る

いものがあったのであるが、実際には、都会の特殊性もあって伸び悩んでいるのが実状である。

今後この運動を神社界の教化活動機構の中に体系的に折り込んで対処していく為の指針を見出すべく、三者の意志疎通をはかるための企画であった。

神青、氏青、神社庁のそれぞれの挨拶ののち懇談会に入り、それぞれの氏青会の活動状況報告があつて討議に入った。アンケートにも出ている様に神社界での組織作りは、呼びかけに対し、また、神職自身にとつても必要性は承知しているが、いざ実行の段となると成果が上らない。ただ組織作りを連呼するばかりではなく、常に氏子に対する教化の中で体系的に考えられていかねばならぬ。神社と氏子との関連性という面については、都会地に於ては特に啓蒙の面がまだまだなおざりにされているきらいがあることなどが話合われ、神社庁としても、東京都神社

総代会の、氏青を育成しようの決議に従い教化事業の中に施策すると共に、それにとりもなう予算にしても事務処理にしても神社庁内に担当をおいて円滑化に努力したいむね話し合いがなされた。

### 貴神社の氏子

#### 青年対策について

(回答者三百三名)

(1) 貴神社に氏子青年会がありますか。

- (イ) ある 十九名
- (ロ) ない 二八九名
- (ハ) 其の他の会あり 十六名

(2) 上記の「其の他の会」を氏青に発展させたいと思いませんか。

- (イ) 思う 一一三名
- (ロ) 思わない 四一名

(3) 氏青を作りたいと思いませんか

- (イ) 作りたい 一七〇名
- (ロ) 作りたくない 三一名
- (ハ) 無関心 二二名
- (ニ) 其の他 十五名

(4) 氏青が出来ない理由は

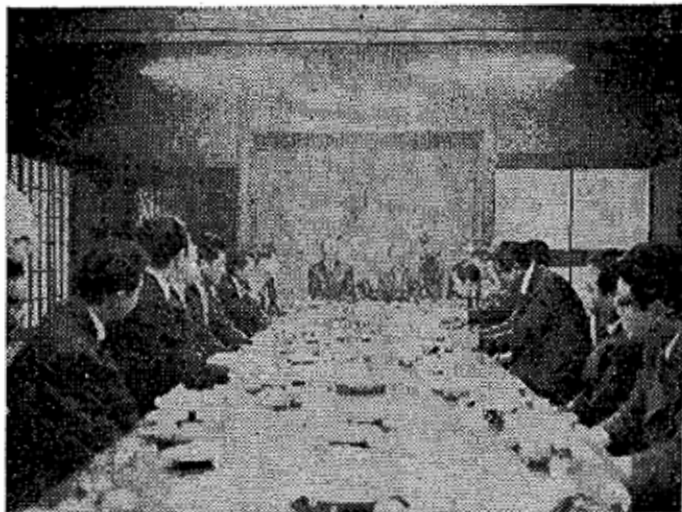
- (イ) 心要がない 二五名
- (ロ) 資金がない 三〇名
- (ハ) 資料がない 二三名
- (ニ) 組織づくりの経験がない 四〇名
- (ホ) 忙しい 八三名
- (ヘ) 時期尚早 六七名
- (ト) 其の他 三〇名

(5) 氏青を作るにはどのような希望がありますか。

- (イ) 氏青に関する資料がほしい 一一三名
- (ロ) 結成までの助言がほしい 五〇名
- (ハ) 其の他 一二名

(6) 結成の希望時期は

- (イ) 今年中 九名
- (ロ) 来春 二二名
- (ハ) 来秋 十四名
- (ニ) 其の他 六九名



# 氏子青年紹介

## その一

氏子青年会の結成が叫ばれてから久しい。本会のアンケートによると氏青会は十九社に存在するはずで、現在東京都氏子青年連絡会に加盟しているのは六団体にすぎない。ここに二回にわたって、その加盟六団体を紹介し、参考に供すると共に、後続会の結成、加盟を切望する次第である。

### 道々橋八幡社 氏子青年会

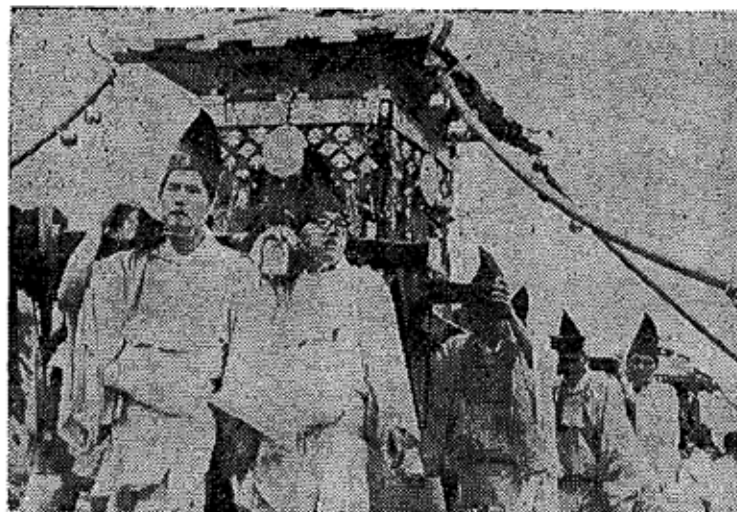


(所在) 大田区道々橋町十五(会長) 醍醐武一(会員) 三十名(活動) (一) 昨年十一月全国氏青より優秀氏子青年会として表彰される(二) 毎春地元警察の協力を得て新入学児童の入学奉告祭と交通安全祈願祭を行なう。(三) 神社大祭その他諸行事への参加奉仕(四) 事業所等の見学による教養講座(五) 夏休みの早起きラジオ体操(六) 会員相互親睦のためのつり大会。

### 日技神社 奉賛青年会

(所在) 千代田区永田町二ノ十(五) (幹事長) 大沢政次郎(会員) 二四五名(活動) 神幸祭皇居参賀の鳳輩奉昇奉仕をはじめ、正月成

人式の祝餅つき、一日十五日の早朝社殿清掃奉仕、ラジオ体操指導、大國旗掲揚台建設その他の事業を行なっている。特に会員相互の研究に力を入れ、研究講座の開催は成果を挙げた。神道理念を体得し祭儀、行事の助勢に励む姿は氏子の称賛の的であり、氏子崇敬会の教化事業の中核を担っている。



### 氷川神社 氏子青年会

(所在) 杉並区高円寺南四ノ四四ノ一九(会長) 谷謙一(会員) 八〇名(活動) 四月総会、五月大宮氷川本社参拝旅行、子供の日映画大会(七、八月) 野球班の活躍、例大祭奉仕(九月) 親睦旅行(十月) はぜつり大会(十一月) 西の市見学、全国氏青大会参加(二月) 元旦祭初顔合せ、新年会(二月) 全国氏青研修会参加(三月) ひなまつり餅つき大会(写真) その他毎月十七日夜定例集會、毎月第二日曜日清掃奉仕実施。



# 特別座談会

## 『神道政治連盟』

### その理解と青年の役割

昨年十一月八日発足した神道政治連盟は、活発な活動を展開しているが、この「神政連」に対して斯界内部に賛否両論があり、PRが不足している点があることも事実である。本紙では「神政連」とは何か、その理解と、われわれ青年の果たすべき役割は何か、をテーマとして座談会を行なった。(三・一二 於神社本庁)

司会 まず神政連が生れた動機目的などを説明して下さい。

上杉氏 神社本庁が建国記念日法制化の問題に着手して、達成まで十二年かかったが、その間の運動が非常に困難を極めた。それは国会に直接神社界につながる議員が居らず、こちらに好意を持ってくれる議員にすぎない。なかつた



めで、簡単には動いてくれなかつた。神社界は他の宗教団体より多くの政治問題をかかえている。神社自体の法律的問題、神宮、元号の問題、靖国神社問題など、宗教

団体である神社本庁では解決しにくい問題が多い。こうした神社界がかかえている問題の具体的解決をはかるために神政連は生れた。

司会 発足後の経過と現況について事務局長さんから。

川井氏 神政連は昨年十一月八日に発足した。その直後に衆院選があったため、本来の組織化、広報活動などが一時遅れた。衆院選には二十三名の候補を推薦し十九名当選した。実際活動の手足となる

各県本部の結成は、昨年十二月から具体的とりくみを決め、現在七県本部が結成されており、これと並行して募金活動を展開している。その間、政策と方針を打立てるため政策審議会を設置し、とりあ

えず広報活動に重点をおきつつ、健全な政治団体として成長していくための努力をつづけている。また神社界がかかえている多くの問題の中で、特に靖国神社国家護持の問題と取り組むことになっている。

上杉氏 一月に神政連推薦の当選議員の懇談会を開催、神社本庁が政治結社をつくって立ち上った以上大いに協力するということで、神政連議員のクラブをつくらうとの申合わせを得て、その世話役の議員も決っている。

司会 今後の方針として、さきほど話の出た靖国神社問題について



西田氏 私は局外者だから、神政連の活動について責任ある発言はできないが、神政連が今年度重点をおくという靖国神社の問題については、いまのお話の議員連盟のようないいものができることになれば、神政連としてもこの問題促進に大きな影響力を及ぼすことができるだろうと期待している。ただ具体的にどのよう運動を進めるかと

いうことが神政連のいまの課題で、せっかく国会とのパイプが広くなったのだから、それだけの力を発揮して欲しいと思う。

### 座談会出席者

- 神道政治連盟会長 上杉 一枝 氏
- 神道政治連盟事務局長 川井 清敏 氏
- 神社新報社編集長 西田 広義 氏
- 本会会長 齋藤 吉則 氏
- 本会副会長 八木 光昭 氏
- 本会委員 森田 義則 氏
- 山本 雅道 氏
- (司会) 本会委員(編集部) 宮西 惟道 氏

るの問題を神政連の方で解決して  
いくことになる。このため両者間  
にパイプを通す意味で、連絡委員  
会を設けた。従って、靖国問題は  
この連絡委員会で取り組み方が協  
議されることになる。神政連と  
しては、靖国問題と並行して、神  
政連への理解を深める活動を進め  
ることを考えている。

司 会 神政連への理解という話  
が出ましたが、そのことについて  
西田氏 神政連がどうしても必要  
なのか、何をするのかということ  
が、まだその母体であるはずの神  
社界の人達に必ずしも徹底して理  
解されていない。神政連として  
は、まず神社界の末端までその理  
解を徹底させることが、当面一番  
大きな仕事だと思ふ。

**神道政治連盟宣言**

わが日本国の現状は、内に外にまことに憂念禁じ難きものあり。よってこの際、神道の精神を以て志を同じうする者相はかり、民族の道統を基調とする国政の基礎を固め、且つその姿勢を匡さんがため、ここに神道政治連盟を創立し、綱領五ヶ条の実現を期する。

を得なかった。しかも、これらの  
問題は単に神社界の利益を守ると  
いうことでなく、同時に日本国全  
体の問題であるところから、政治  
法律に強い関心を持たざるを得な  
い状態で、神社界は二十数年間経  
てきた。この条件を考えて神政連  
の誕生を充分認識しなければなら  
ない。

司 会 お話の通り、肝心なのは神  
政連を盛りたてていく神職の協力  
理解。会員の増強などと思われる  
が、ここらで青年神職の声を聞き  
たい。まず齋藤会長からどうぞ。



齋藤氏 東京都神道青年会として  
神政連につ  
いて話合っ  
たことがな  
いので、個  
人としての  
発言だが、

実際問題として私のところでは、  
衆議院の議員が二人いて、総代会  
が二つにわかれる様な状態の中で、  
神職として政治に関係するといふ  
ことは、非常に難しいことになる  
ので、どうしても消極的にならざ  
るを得ない。

上杉氏 本来選挙というものは清  
らかな神聖なものでなくてはいい  
ない。若い神職が神道精神に徹し  
て、やむにやまれぬ熱情から正し  
い人を選んでくれと、氏子をリ  
ドしてもらいたい。政治をよけれ  
たものとして顔をそむけていたら  
日本は立っていかない。



山本氏 神政連発足の時には、青  
年層をいったいどのように考えて  
いたか。また政治連盟として、あ  
くまでも間  
接的政治運  
動を行な  
うとするの  
か、あるい  
は一日も早

く代表を政界へ送り込もうという  
のか。さらに、会長のおっしゃる  
あるべき姿と未端の現実とは考え  
方にかかなりの格差があると思うが  
どうですか。

上杉氏 創立までは本庁で委員を

たてて組織づくりをやったが、発  
足した上は発足したその団体の考  
えで進むわけで、何ととっても若  
い世代の人達が第一線に立ってや  
ってもらうようにしていきたいと  
考えている。若い力をかりなけれ  
ば発展も徹底もない。

また政党を組織して政治を進め  
るといふようなことは考えていな  
い。神社本庁と不離一体の立場で  
やっていきたい。代表を政界に送  
ることについては組織の充実とみ  
んなの納得が必要であり、無理す  
べきではない。従って地方選挙に  
ついては、応援はするが、地方の  
意志に応じてやるべきで、中央か  
らの指令は出さない。

西田氏 補足するが、神政連結成  
の準備段階では神青協の会長も代  
表として出ていたわけだ。また代  
表を政界に送り出しうるかどうか  
は、神政連の力がどれだけあるか  
にかかっている。卒直にいえば、  
現在は圧力団体になるほどの力も  
ない。その前の政治啓蒙団体とし  
てやっと出かかっているという段  
階である。力がついて独自の候補  
者を出せるようになったら出せば  
よいと私は思うのだが、少なくとも  
も現在はそういうことを考える時

期ではないのか。また選挙は、政治活動の重要な部分ではあるが、しかし一部にすぎない。神政連の綱領その他に書かれてある通り選挙以外にもなすべき多くの政治活動があると思う。

川井氏 対青年構想としては、各政治団体どこでも必ず青年部を設けている。神政連が具体的活動を進めていく上で、何と言っても中心になるのは青年の活動である。将来県本部の結成が進んでくれば神政連青年部の設置を考えてよいと思う。

司会 もう少し具体的に問題点を論議したい。八木副会長いかが

ですか。

八木氏 神政連について、はたして全国の神社人がこれに賛同しているかどうか。またこれに関連して選挙についての是正しなければならぬイメージとして、誰を候補者として出すんだ、という考え方が強く浮き出てしまっている中で、神政連本来のあり方は現在こ



うなんだということをもっとPRしないと、青年神職を含めて、社人の誤解がありすぎるのではない

### 神道政治連盟綱領

- 一、神道の精神を以て、日本国々政の基礎を確立せんことを期す。
- 一、神意を奉じて、経済繁栄、社会公共福祉の発展をはかり、安国の建設を期す。
- 一、日本国固有の文化伝統を護持し、海外文化との交流を盛にし、雄渾なる日本文化の創造的發展につとめ、もって健全なる国民教育の確立を期す。
- 一、世界列国との友好親善を深めると共に、時代の弊風を一洗し、自主独立の民族意識の昂揚を期す。
- 一、建国の精神を以て、無秩序なる社会的混乱の克服を期す。

いだろうか。誤解といえれば活動資金のこともこれにからみあって問題になると思うが。

川井氏 神政連規約の第四条から特定の神社界の代表を政界に出すという点が浮きぼりにされて、神政連の性格がゆがんで受けとられやすい。その点PR不足は否めな

活動資金の問題は現在、神社本庁から応援資金をいただいております、とりあえず理解ある有力大社からいただこうということで募金運動がはじまりました。実際に活動が進展すれば、それをバックに財界からの募金を考えている。

森田氏 個人的には以前から政治活動にたずさわってきているが、神社界では神政連即神主の議員を出す、と考えられるところに問題があると思う。

しかし実際問題としては、神政連の活動を進める場合にも、神主の側に政治理念、政治学習というものがある。一つの基準として選挙のときなどに自分の持っている政治理念にもとづいて、候補者を見定める力をつけるということ。神政連が推薦候補を決める場合も、きめ細かく最低条件は

ここにあるというところを決めて候補者にそれを求め、解答を得た上で、推薦状を出すというところまでできないのは充分でない。われわれはただ推薦したということしか知らされないが、これこれの要望をしたら候補者からこういう解答があったのでそれを検討した結果推薦することに決めた、という詳しい知らせ方をしないと末端会員を納得させることはできない。



司会 ムード的推薦でなく公約を伴った候補者ということですね。

西田氏 同感ですね。選挙の問題をはなれても、いまの意見は神政連の活動を考える場合に大切なことだと思ふ。政治的学習とか神道精神に立っての国政の確立とはどのような理論づけられるのかといった問題は、神政連として重点的に考えなければならぬ問題であり、そのために政策審議会があるのだが、これが充実して政治に関する諸問題の研究調査を充分にやり、下部に流す、下部ではこれを

生かして啓蒙や学習活動をやって行くというようなことが、神政連の着実な仕事でもあり、組織を伸ばすことにもなる。

司会　そろそろ終りに近づきましたので、まじめに入りたいと思いましたが、事務局長さんからどうぞ。

川井氏　個人としての発言にしたい。政治問題というとき青年の方々がこれにタッチする時に、高い次元のことを言わなければ、政治問題をとりあげたことにならないという感じ方が一般にあるようだ。むしろ、氏子青年会の綱領にもあるような信



仰に基づいた地域のたのめの仕事など、従来やっています。

とに組み込む運動など、気楽にやれることをまず頭に浮かべてもらいたい。

上杉氏　若い世代の人に第一線に立ってもらいたいと言うのは、青年部のことも大事だが、地方本部が役員構成をする時に若い人を沢山入れてもらって活動の中心となってもらいたい。しかし若い人だ

けでつっ走ることは困るので、やはり要は神社庁長さんなどにおさえてもらって、その手足となる諸役に若い人を登用してもらいたいと念願している。

山本氏　せっかくの話し合いの機会なので、神政連の機関に青年層の意見が反映できるような配慮をして下さることをここで約束していただきたい。

上杉氏　わかりました。地方へ行っても各神社庁長さんに充分お願いをする。

司会　対青年の問題は会長さんの御決意を確認できたので、「その理解」のまじめに入りたいと思います。

齋藤氏　さきほども話が出たが、神政連について未端まで理解ができるよう努力してもらいたい。

上杉氏　それです。それが私の使命なんです。

齋藤氏　それにやはり代表を国会などに送り出すというところがちょっとひっかかるので、この辺もよく誤解のない様にPRしたらよいと思う。

川井氏　神政連が発足する出発点は誰か国会に出したいというところからはじまったわけで、準備を

進めていく内にもっと視野の広い政治活動が必要だというように転回しているのだが、出発点の話を多くの人を知っているのです、すぐ誰を出すのかと考えやすい。

西田氏　こんど神政連が発足したというところで、関係議員はこれに非常に期待をかけている。その期待がまちがった期待ではなかったと議員たちにも確信させるくらいの力のある組織に神政連が育ってほしいと思う。それは結局、神道界の関係者の努力にまつところが

### 神政連設立の経過

神道政治連盟の設立は、かねてから神社界の強い要望であった。建国記念日法制化運動などを通じて、政治と神社界とのパイプが是非必要だとの認識が強く起っていたが、まず去る昭和四十一年の神社審議会の答申がこの問題にふれて、強力な団体を組織し、国会に代表を送ることの必要を強調した。昭和四十二年の評議員会の決議に基いて設立された選挙対策委員会は、神道政治連盟結成のための準備委員会のすみやかな設置を強

大きい。

司会（宮西氏）神社神道を守る政治団体として神政連という一つの核ができたわけで、それについて



反対意見があるにしても、とにかく神政連は生れたのだから、これをどう育てるか斯界全体の責任であるわけだ。どうもありがとうございました。

調したところから翌年、組織準備委員会が神社本庁林事務総長を委員長として発足、審議を重ね昨年五月、設立発起人についてなどその大綱を評議員会で報告、続いて準備委員会は昨年九月、発起人代表者として上杉一枝氏を推薦、今後の準備運営を上杉氏を代表とする設立発起人会に引継いでその任務を終え、昨年十一月八日、神社本庁大講堂で開かれた設立発起人総会によって「神道政治連盟」が発足した。この席で会長に上杉一枝氏、副会長に野村専太郎、加藤鏡次郎の両氏、幹事長に金子安平氏がそれぞれ就任した。

昭和四四年度  
会務報告



4・17 全国会長会議、神青協創立二十周年記念事業実行委員会（神社本庁）  
記念事業の協議  
記念野球大会を本会が協賛することが決定

4・21 委員会（神社庁）  
四十四年度総会について  
本会二十周年記念行事について

5・8 総会（神社庁）  
四十四年度決算報告  
四十四年度予算案等原案通り可決成立、記念講演「一九七〇年と日本の安全保障」講師 久住忠男氏



5・28 委員会（神社庁）  
禊について  
特殊神事見学について

5・30 氏子青年会についてのアンケート集計とまる

6・16 神青協二十周年記念大会  
神青協総会（神社本庁）

6・17 神青協公開講座「日本の精神構造と今後の課題」  
（日枝神社）

6・18 神青協親善野球大会

6・19 20 懇親旅行（伊豆長岡）

6・23 戦歿沖繩学徒慰霊祭参列（靖国神社）

7・2 大袂形代流し連合会参加

7・3 関東地区神社庁親善野球大会（浦和市営球場）

7・16 国民精神昂揚禊錬成講習会（武州御嶽山）  
（講師）前高崎経済大学々長三猪信吾氏 神社本庁教育学部長渋谷謙一氏

7・22 東京都神道人野球大会（神宮球場）

8・6 7 9 全国氏青年協議会第七回定期大会、中央錬成会（西宮神社）

8・16 靖国神社国家護持促進、安保推進国民運動に参加

9・24 神青協中央研修会、中央委員会（静岡県小国神社）

10・7 本会二十周年記念事業実行委員会（大宮八幡宮）

10・13 委員会（馬橋稻荷神社）  
本会二十周年について

10・18 はぜつり大会（浦安沖）

10・19 集団暴力追放青年学生会議に神青協の依頼で参加

10・23 神青・氏青連絡会  
全国氏青年会長会議について  
氏青優秀会表彰推薦の件

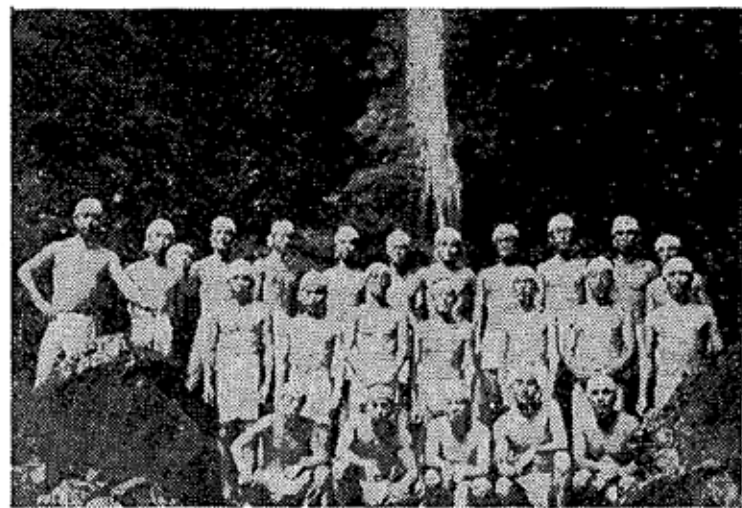
11・24 教養講座（雪ヶ谷八幡）

11・29 北方領土復帰促進国民大会（日比谷大音楽堂）

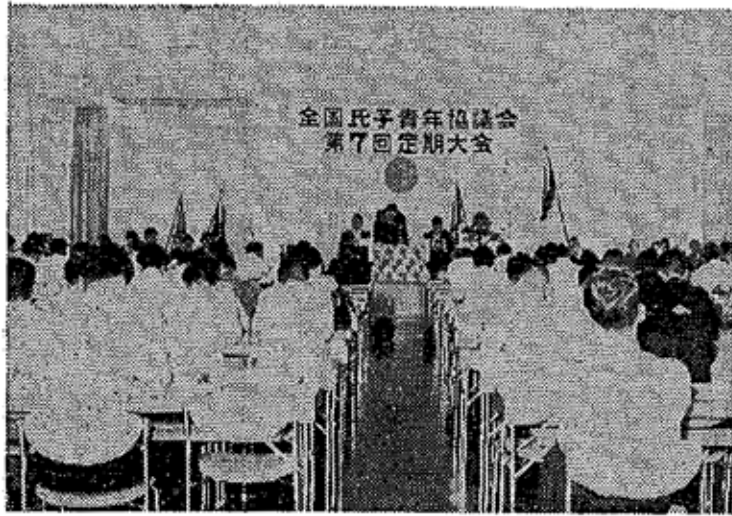
12・3 神青・氏青連絡会（日枝神社）  
神社庁幹部との懇談会の件  
関東地区氏青研修会の件

1・14 新年会（神田神社）  
記念講演「維新と革命の相違について」影山正治氏

1・30 委員会（神社庁）  
建国記念日祝賀行事の件  
一都七県神青協総会の件



「神葬祭及び霊祭について」  
発題者鳥越神社宮司楠木淑



- 日の丸パレードの件
- 2・10 建国記念日奉祝運動  
雉子神社集合、五反田駅頭にてマッチ、ピラ配り  
建国記念日祝賀パレード  
(日枝神社集合)
- 2・11 建国記念日中央奉祝行事  
(明治神宮参集殿)
- 2・13 委員会(神社庁)  
一都七県神青協総会実施について
- 2・71 神青・氏青と神社庁幹部との合同座談会(高円寺氷川神社)



- 「神社庁と神青・氏青との連絡協同について」
- 2・21 関東地区氏子青年研修会  
(三峯神社)
- 3・7 委員会(神社庁)  
一都七県神青協総会実施について、日の丸パレードについて、会報創刊について
- 3・12 神政連との座談会(神政連—その理解と青年の役割—(神社本庁)  
神政連上杉会長、川井事務局長、神社新報西田編集長  
本会会長他四名
- 3・21 日の丸パレード



- (城北城西方面)
- 3・21 委員会(大宮八幡宮)  
一都七県神青協総会実施について
- 3・27 本会会報「やくわえ」創刊号発行
- 3・27 一都七県神青協総会開催  
(神田神社)

### お知らせ

#### 詩吟の会

神青有志により、神社庁にて詩吟の練習をしています。リーダーは墨水会師範亀井瑞雄氏、問合せは杉並区斎藤英雄氏または葛飾区鏡武男氏まで。

#### 神道時事問題研究会

神道について神社界以外の人達とも話し合いをする会です。前回は台東区高島氏のところ、次回は新宿区梶氏のところ、安保問題研究中。問合せは新宿区片山文彦氏へ

#### 木綿花会

城南四区でつくっている勉強会  
前回は平山満男氏の発題で「現代祝詞作法」を勉強、三月十八日には熱海旅行あり、問合せは太田区北川正保氏まで

### おねがい

会員の移動、住居表示変更等で住所変更、脱会加入などがありましたら、庶務部長へすみやかに連絡して下さい。

# 国民精神昂揚運動伝達講習会

副会長 本橋 久徳

国民精神昂揚運動の東京都の伝達講習会を神社庁教化部で計画を立てる事となった。この講習会は行学一致を目的としている為に行としての禊錬成を織り込まなければならぬ。神道青年会では毎年禊錬成会を実施しているが、これは青年会独自の立場で行なうて来たもので、もう十数年の歳月を経て来ている。そのため禊錬成に関する資料、宿泊地等の交渉も容易に出来る状態であるので、神社庁と共に錬成会を持つこととなった。そして行(禊)の事は一切青年会の計画に従って行なうと言うことで行事、日程を組立てた。

昨年までやって来た東京都神道青年会の禊錬成会は行を主体としたものであって、今回の伝達講習会とは主旨をいささか、異にする。伝達講習会はどこからかと言うと(学講演)の方に主力を向ける様になる事はいたしかたない。その為か昨年に比べてどうしてもし

っくりしない処があった。それは行をやり講義を聞き、また行をすると言ったサンドウィッチ式な日程の為に、せっかく行に没入できる雰囲気になりかけながら、それを中断して講義を受ける事になってしまふ。また朝夕のかゆ腹に行で体力を消耗するせい、夜間の講義は睡魔と戦うのに苦勞する。



行より眠気を我慢する方が苦しい、と話し合っている受講生もあつた。しかしながら東京の俗塵をはなれ、海拔一千米の山上での生活はすがすがしいものがある。行学共に反省する点多々あると思

うが、第一回目としては良い成績を修めた事と思う。青年会諸兄永年にわたる禊錬の実績が今ここに実現したものと自負されたい。先発隊の方々のお籠りの清掃、受講者の部屋割り等々、講習会終了

## 編集後記

懸案であつた会報「やくわえ」創刊号をやつとお届けすることができません。昨春発行の予定が、夏になつても原稿が出そろわず、発行を断念したことを考えれば、今回の発行を決めてから、たった一週間で入稿できたという事は、

(神政連との座談会の企画実行もその間に入る)関係者がその気になつて一致協力すれば何でもできる、ということの一つの証左でしょう。ただ、このスピード編集で、調査部員はもちろん、神政連

まで種々お世話下さり、ご苦勞様でした。反省会の席上多くの受講者も感謝の意をこめて、また、来年もぜひ受講したいと語り合つていた。

来年もこの伝達会を持つならば今年の経験を生して、より以上すぐれたものにしたと考える。ご奉仕下さった会員諸兄に感謝の意を込めて厚く御礼申し上げます。講習会の要旨は東神に寄稿致しましたので省略致します。

の方々や神社庁、東神の方などに無理を申し上げ御迷惑をおかけしたことはお詫び致します。年度が交つて、新しい編集体制での機関紙行が続けられることでしょうが、原稿の提出期日を厳守するなど、万全の協力を関係者はしたいものです。この会報がその名の如く充実発展することを祈つてやみせん。(春田)

昭和四十五年三月二十七日  
**東京都神道青年会**  
 東京都港区元赤坂二―二―三  
 東京都神社庁内  
 電話(408)二三六一・九二七七